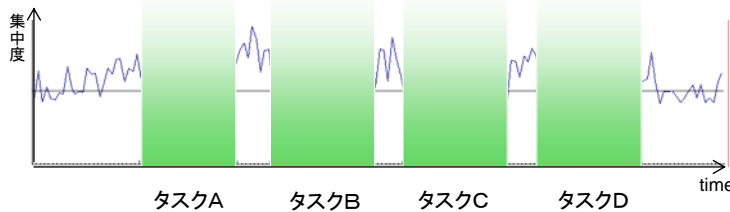
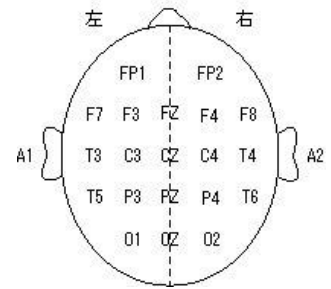


# 多次元脳波データの解析に関する研究

- 脳波は客観的指標となる生体心理情報であり，感情・覚醒度・集中度など様々な情報を得ることが可能である。
- 脳波計測は，危険作業従事者の遠隔監視，感性情報の定量的評価，ALS患者のコミュニケーション手段などに応用可能である。
- ここでは，特に「集中度」を簡易に計測する装置の開発を目指し，国際10-20法に準拠した20点(右図)での脳波を計測した。
- 被験者5名，タスク8種類とした。
- 断続的にタスクを実行した。



計測装置

協力: (株)脳機能研究所

# 実験の原理と結果

- 前頭部の4電極(FP1,FP2,F3,F4) (右図の水色)の脳波の統合度から**精神的集中度**を測定する武者らによる先行研究を受けて，この集中度に近い値を与え，かつ装置化し易く近接している4電極を20電極から実験的に求めた。
- 実験に用いた4電極の例を右図中に紫色で示す。
- その結果，右図中央に示すNo.15の4電極が，右のグラフのように近似度が高いことがわかった。
- このため，例えば帽子，バンダナやメガネなどに電極を装着した簡易な装置での集中度の計測が可能と考えられる。

